

国際シンポジウム「環境分野の市民参加と司法アクセスの役割」

会 期：2016年11月3日（木祝）9:30-18:00, 4日（金）9:00-18:00

会 場：ホテル阪急エキスポパーク本館B1階 オービットホール（大阪府吹田市千里万博公園1-5）

使用言語：英語・日本語（同時通訳付）

主 催：コンラート・アドナウアー財団、大阪大学グリーンアクセスプロジェクト II 「環境法の参加原則に係る評価指標の検討—環境民主主義の確立に向けた国際連携構築」（科研費）、大阪大学プロジェクト TIGER「エネルギー、化学物質、水管理政策における市民参加型の意思決定手法に関する国際比較」（グローバル展開プログラム）、三井物産環境基金「アジア版オース条約に向けた提言—環境正義実現のための国際連携構築」

第1日目 11月3日（木）

9:00 受付開始

9:30-10:00

開会挨拶

司会：山下 英俊（一橋大学大学院経済学研究科 准教授）

主催者挨拶 ギゼラ・エルスナー（コンラート・アドナウアー財団アジア法の支配プログラムディレクター）

三成 賢次（大阪大学 理事・副学長）

来賓挨拶 寺西 俊一（日本環境会議 理事長、帝京大学経済学部 教授）

深見 正仁（環境省 大臣官房審議官）

10:00-12:00

第1セッション 総 論

司会：小林 光（慶応義塾大学大学院政策・メディア研究科 特任教授）／渡辺 理和（大阪大学大学院法学研究科 特任研究員）

報告 1

大久保 規子

大阪大学大学院法学研究科 教授

10:00-10:25

参加原則と日本・アジア

報告 2

スティーブン・ステック

ハンガリー 中央ヨーロッパ大学環境科学・政策学部 准教授

10:25-10:45

SDG 目標 16 に関する国際的なベストプラクティスへの応用—リオ宣言第 10 原則に関する UNEP バリガイドライン

報告 3

ヤン・ダルボ

スウェーデン ウプサラ大学法学部 教授、オース条約司法アクセス部会長

10:45-11:05

欧州・EU 法における権利—財産権から環境民主主義へ

報告 4

アレクサンダー・ユラス

ケニア 国連環境計画（UNEP）メジャーグループ・ステークホルダー部門局長

11:05-11:25

地球規模レベルでの参加原則のさらなる適用と UNEP の役割—アジア、アフリカ、南米を事例として

コメント

淡路 剛久

立教大学 名誉教授

11:25-11:35

11:35-12:00

◆質疑応答・第1セッション小括

12:00-13:30

記念写真／昼食休憩

13:30-16:20

第2セッション 水資源管理と参加・訴訟

司会：大塚 健司（JETRO アジア経済研究所 主任研究員）／チアゴ・トレンチネラ（大阪大学大学院法学研究科 特任研究員）

報告 5	アニバルド・ミランダ 13:30-13:50	ブラジル サンフランシスコ川流域委員会 会長 サンフランシスコ川流域委員会—ブラジルにおける参加型水管理の経験から
報告 6	松本 充郎 13:50-14:10	大阪大学大学院国際公共政策研究科 准教授 コロラド川流域の意思決定過程における法の支配と公衆参加—1944 年米墨水条約における IBWC・NGO・司法
報告 7	シリボン・ワチャワルク 14:10-14:30	タイ タマサート大学政治学部 准教授 タイ北部メコン川支流における洪水管理に関する省庁間協働と地域コミュニティの役割—コック川流域における遠隔測定システムを用いた事例研究
報告 8	グロリア・エステンツォ・ラモス 14:30-14:50	フィリピン オセアナ・インターナショナル・フィリピン 副理事長 フィリピンにおける海域・海洋景観に関する市民参加と司法アクセス

14:50-15:10 コーヒーブレイク

報告 9	サンジート・プロヒト 15:10-15:30	インド Legal Initiatives Based on Research & Advocacy 理事, Juris Orbis 環境弁護士 インドにおける水質汚濁問題—改善と問題の複雑性
報告 10	上須 道徳 15:30-15:50 15:50-16:20	大阪大学工学研究科附属オープンイノベーション教育研究センター 准教授 非特定源汚染管理とパブリックエンゲージメント—アメリカの事例研究 ◆質疑応答・第2セッション小括

16:30-18:00

第3セッション エネルギー —高レベル放射性廃棄物と合意形成による処分地選定プロセス

司会：松本 和彦（大阪大学高等司法研究科 教授）／山下 英俊（一橋大学大学院経済学研究科 准教授）

報告 11	アントニオ・ロスマン 16:30-16:50	米国 カリフォルニア大学バークレー校ロースクール ジョン&エリザベス・ボルト水資源法講座 講師 ユッカマウンテン放射性廃棄物処分場に対する米国ネバダ州の抵抗とその成功
報告 12	モニカ・ベーム 16:50-17:10	ドイツ マールブルク大学法学部 教授 ゴアレーベンにおける高レベル放射性廃棄物と合意形成
コメント	高橋 滋 17:10-17:20	法政大学法学部 教授
コメント	小林 傳司 17:20-17:30 17:30-18:00	大阪大学 理事・副学長 ◆質疑応答・第3セッション小括

18:30-20:30 レセプション

第2日目 11月4日（金）

8:30 受付開始

9:00-11:00

第4セッション 参加の主体と法的評価指標

司会：コー・ケン・リアン（シンガポール国立大学アジア太平洋環境法センター 名誉所長）／福井 康太（大阪大学大学院法学研究科 教授）

報告 13	マーラ・シリナー 9:00-9:20	ベルギー 欧州エコフォーラム 共同議長 環境政策における NGO・コミュニティの参加の役割
報告 14	趙 絵宇 9:20-9:40	中国 上海交通大学法学院 副教授・上海環境局 副局長 中国における企業環境クレジットの評価に関するシステム改革とその実践
報告 15	ハンス・イェルク・ディーチェ 9:40-10:00	ドイツ ビーレフェルト中小企業大学 教授 ドイツ環境政策における市民・NGO の役割

報告 16	礪野 弥生	東京経済大学現代法学部 教授
	10:00-10:20	参加の手法と指標の在り方—SEA/EIA における主体と情報の観点から
報告 17	高村 ゆかり	名古屋大学大学院環境学研究科 教授
	10:20-10:40	環境問題に関する参加をはかる指標—関連指標の先例に学ぶ
	10:40-11:00	◆質疑応答・第4セッション小括

11:20—15:00 第5セッション 環境アセスメントと市民参加

司会：作本 直行（日本貿易振興機構 環境社会配慮審査役）／リカ・ファジュリニ（インドネシア環境法センター研究員，京都大学大学院地球環境学堂）

報告 18	柳 憲一郎	明治大学法科大学院 教授
	11:20-11:40	日本における環境アセスの参加方式の検討—制度化とその方法
報告 19	リトウィック・ドゥッタ	インド 森林環境リーガルイニシアティブ 環境弁護士
	11:40-12:00	インドにおける環境アセスと市民参加
コメント	李 明芝	台湾 大阪大学大学院法学研究科 研究生
	12:00-12:10	

12:10—13:30 記念撮影／昼食休憩

報告 20	ピーター・キング	タイ（公財）地球環境戦略研究機関（IGES）バンコク地域センター シニアポリシーアドバイザー
	13:30-13:50	メコン河流域諸国における環境アセスに係る参加ガイドライン
報告 21	イエジー・イエンドロスカ	ポーランド オポーレ大学法学部 准教授，オーフス条約遵守委員会 委員
	13:50-14:10	EU および中東欧・中央アジア諸国における環境アセスと市民参加—国際基準の観点から
報告 22	アンドレア・サンウェサ	チリ アクセスイニシアティブ（TAI） 設立委員
	14:10-14:30	ラテンアメリカ・カリブ諸国における EIA システムに関する市民参加と情報アクセス
	14:30-15:00	◆質疑応答・第5セッション小括

15:00—15:20 コーヒーブレイク

15:20—17:50 第6セッション 環境裁判所

司会：大塚 直（早稲田大学法学部 教授）／西島 和（西島法律事務所 弁護士，（公財）日本自然保護協会 評議員）

報告 23	スアタンテル・クマール	インド 環境裁判所長官
	15:20-15:40	環境正義へのアクセス—インドにおける環境裁判所（NGT）の経験から
報告 24	羅 光黔	中国 清鎮市人民法院環境保護法廷 所長
	15:40-16:20	司法は環境保護のために何ができるか—清鎮市人民法院における生態保護法廷の取り組みを例として
		*中日逐次通訳
報告 25	バンバン・ムリヨノ	インドネシア ジェンベル地方裁判所長
	16:20-16:40	訴訟手続における環境権に対する市民参加の保護
報告 26	パイロート・ミンデン	タイ ソンクラー行政裁判所 副所長
	16:40-17:00	タイ移行期下における環境保護に関する司法による応答
報告 27	オーサ・マルクンド・アンダーソン	スウェーデン 環境裁判所 裁判官
	17:00-17:20	専門裁判所による環境正義の実現—スウェーデンにおける土地・環境裁判所（LEC）
	17:20-17:50	◆質疑応答・第6セッション小括

17:50—18:00 閉会挨拶

林 智良（大阪大学大学院法学研究科長）

